

三河の昆虫

No. 26

1980年8月

〒444 岡崎市明大寺町
西郷中 生理学研究所
技術課内
三河昆虫研究会 発行
水谷印刷印刷
(05362) 3-1211(代)

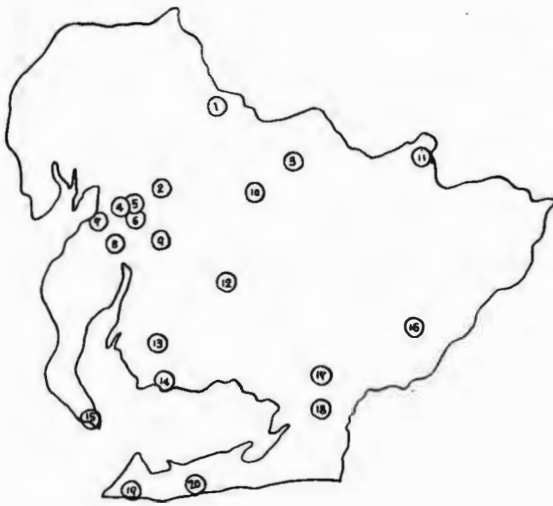
愛知におけるハイイロヤハズカミキリの分布

湯 沢 宣 久 石 川 豊

筆者らは今日までに愛知県内において下記のとおり本種 *Niphona furcata* (BATES) を採集しているので紹介する。

- | | |
|---|---|
| ①瀬戸市定光寺町
1974. 1. 26 3EXS (NA) HOST. メダケ
1976. 2. 6 2EXS (NA) HOST. メダケ | ⑪北設楽郡稲武町
1979. 4. 6 3EXS (NA) HOST. メダケ |
| ②名古屋市天白区天白町
1979. 4. 9 7EXS (NA) HOST. メダケ | ⑫豊田市松平町
1977. 1. 16 5EXS (NA) HOST. メダケ
メダケ |
| ③西加茂郡藤岡町
1979. 4. 12 5EXS (NA) HOST. メダケ | ⑬西尾市鎌谷町
1980. 2. 16 3EXS (NA) HOST. メダケ |
| ④名古屋市緑区大高町
1979. 4. 14 2EXS (NA) HOST. メダケ | ⑭幡豆郡幡豆町
1980. 2. 16 1EX (NA) HOST. メダケ |
| ⑤豊明市栄町
1979. 4. 12 5EXS (NA) HOST. メダケ | ⑮知多郡南知多町
1977. 1. 6 2EXS (NA) HOST. メダケ |
| ⑥名古屋市緑区有松町
1977. 1. 29 1EXS (NA) HOST. メダケ | ⑯南設楽郡鳳来町
1978. 3. 6 1EX (NA) HOST. メダケ |
| ⑦東海市名和町
1977. 1. 20 2EXS (NA) HOST. メダケ | ⑰宝飯郡一宮町
1979. 4. 12 3EXS (NA) HOST. メダケ |
| ⑧大府市長草町
1977. 1. 20 1EXS (NA) HOST. メダケ | ⑱豊橋市石巻町
1978. 3. 24 2EXS (NA) HOST. メダケ |
| ⑨知立市一里山
1979. 4. 22 1EXS (NA) HOST. メダケ | ⑲渥美郡渥美町
1980. 1. 20 1EX (NA) HOST. メダケ |
| ⑩豊田市力石町
1979. 4. 6 4EXS (NA) HOST. メダケ | ⑳渥美郡赤羽根町
1979. 1. 16 2EX (NA) HOST. ヨシ
メダケ |

以上、筆者らの採集できた地のみでもそう当に広範囲に渡り分布していることがわかる。これは県内には、本種の食樹である竹類が豊産することによるものと思われる。尚、筆者らが確認できた食樹は、メダケ、マダケ、ヨシの3種



であった。また、分布を記録できなかった県北部、三河高原（下山村、作手村）一帯、奥三河山間部（豊根村、富山村）周辺でもこれらの竹類を目やすとすれば、割合容易に見つかるものと思われる。が、単に採集地を増やすのではなく、例えば、他の竹類（ハチク、モウソウチク）の網枝には寄食しないのだろうかとか、後食はどのようなのだろうか、など生態面も合わせて調べて見たいものである。

※本種の後食について筆者の知る限りでは、河路掛吾氏によりモウソウチクの細枝が確認されているのみである。（未発表）

オオチャイロハナムグリを富山村で採集

竹内 克豊

筆者は本種 *Osmnderma opicum* Lewis (1♀) を富山村で採集しているので報告しておきたい。

(採集地) 愛知県北設楽郡富山村大沼

(採集日) 1979年8月5日

採集個体は標高約1000mの自然林と伐採跡地との境にあるミズナラの立枯木上に静止していたものである。この立枯木は胸高直径約70cmで、地上1~4mほどの部分にわたって繊維方向に細長い開口部があり、内部は空洞となっている本種好みの状態であるため、当個体はこれより発生したか、あるいは産卵のため飛来したものであるかと思われる。

三河地方では、過去1955年に三河川合で採集

されているが、その後の記録がないとのことである*。

なお、標本は松野更一氏が保管する。



筆者が富山村で採集した個体

* 大平仁夫 (1973) 鳳来寺山付近の昆虫類、鳳来寺山自然科学博物館。

大平・山崎氏の

「三河のカミキリムシ(1)文献資料編」の補遺

穂積俊文

大平仁夫・山崎隆弘氏は鳳来寺山自然科学博物館々報8 P P.1-20 (1979)に上記表題の論文を発表された。三河地方のカミキリムシに関する文献を広範囲に紹介し、便宜を与えられた。その中で疑問や間違いを所々消されているが不十分であると思われる。この点は月刊むし109 P.29でも指摘された通りである。

私は東海甲虫誌23報(佳香蝶 31 (120) 1979)に訂正を書いたが、掲載が遅く大平・山崎氏は読まれなかった。一方竹内克豊氏も不審な種を確認すべく努力され、色々私に連絡された。これらを総合して追加、訂正、要確認などを記述してより正確なものにした。

引用文献は発表者名の次に()で記した。

1) *Arhopalus tobirensis* Hayashi

シナノサビカミキリ

佐藤氏(22)の報告を疑問に思い、私は佐藤氏に問合せたら同定違いで、正しくは*A. rusticus* サビカミキリとのことであった。私はこのことを既に述べた(9)。

2) *Asemum punctulatum* Blessig

ヒメマルクビヒラタカミキリ

原田氏(3)が報告されたが、竹内克豊氏は設楽町田口に出掛け、発表論文に使われた標本を調べたら、*A. striatum* オオマルクビヒラタカミキリの小型個体であった。なお、竹内氏が再同定された標本を基にして、原田氏(4)は改めて論文を書き直された。

3) *Tetropium castaneum* Li nne

トドマツカミキリ

竹内・松村氏(29)が足助町から記録されているが、発表者自身が人為的偶産種と記してい



fig. 1.

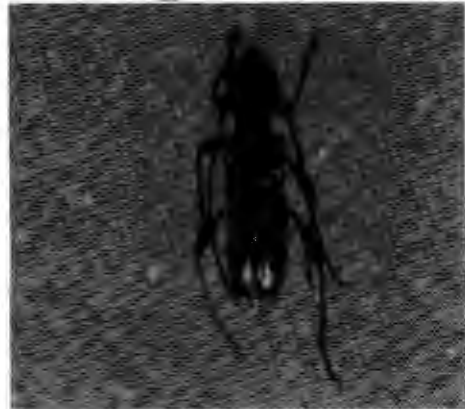


fig. 2.



fig. 3.

るので、三河地方土着でない。

4) *Rhagium japonicum* Bates

ニッポンハイイロハナカミキリ

鈴木氏(25)が本宮山から記録された。青木氏(1)の論文以前は同定に困難なことが多い。本種は本宮山のような低山に生息する可能性は大変少なく、近似の *R. pseudojaponicum* ニセハイイロハナカミキリが岡崎市で多数採集されているので(28)、鈴木氏の記録はニセハイイロハナの可能性が大変強い。むしろニセハイイロと訂正してもよいだろう。

5) *Macropidonia ruficollis* Pic

アカムネカミキリ

神谷氏(12)の報告がある。この報文を作られた1950年代の前半は、段戸はブナ、ツガなどの原生林でカラマツが所々に生えていた。カラマツのみの森林はなかった。昆虫のグループによっては、調査に加った学生の同定をそのまま報告書に記されたと聞いている。現在この報告書に使われた標本は存在せず、以上の事柄から本種の記録は疑問点が多く保留すべきである。

6) *Pidonia insuturata* Pic

ヨコモモンヒメハナカミキリ

神谷氏(12)の報告である。豊根村の記録だが、高度から考えて本種の分布は疑問。また隣接の長野県南部には記録がない(18)。この報告書に使われた標本は現存せず、誤同定の可能性も少なくないので、保留記録とすべきである。

7) *Pidonia miwai* Matsushita

ミワヒメハナカミキリ

私(8)が稲武町より報告した。しかし同定に疑問を感じ、露木繁雄氏に同定を願ったらニセヨコモモンヒメハナカミキリ *P. similima* ♀であった。私は訂正文を書いている(9)。

8) *Corymbia variicornis* Dalman

ブチヒゲハナカミキリ

鋤柄氏(24)が段戸から記録した。これを神谷氏(12)(13)と私(8)が引用した。最近竹内克豊氏がこの鋤柄氏の標本(fig 1)を再同定したら *C. igai* イガブチヒゲハナカミキリで

あった。この記録は削除される。

9) *Kazuoclytus lautoides* Hayashi

ヤマトシロオビトラカミキリ

大平・山崎氏論文は稲武町(27)、設楽町(3)もあげている。しかし稲武町の文献にはこの記録はなく、大平・山崎氏の見間違いである。設楽町は同定違いと判明したので、原田氏は削除して論文を書かれた(4)。

従って現在のところ、阿寺(31)と猿投山(9)の記録のみである。

10) *Clytus raddensis* Pic

シラオビトラカミキリ

竹内克豊氏の再同定で、*C. melaeus* シラケトラカミキが正しいと判明し、原田氏は論文を書き直された(4)。従って愛知県は未記録である。

11) *Plagionotus pulcher* Blessig

コトラカミキリ

記録地の石巻山の環境からみて生息は疑問で、人為的(運ばれた材などから発生)か、誤同定かであり、確認を要する。

12) *Anaglyptus colobothoeides* Bates

シロヘリトラカミキリ

鋤柄氏が鳳来寺山から記録した(24)。神谷氏(12)と私(9)がこれを引用した。しかし疑問を感じて私は鋤柄氏宅を訪ねて再定したら、*A. subfasciatus* キオビトラカミキリ(スギノアカネトラカミキリ)であった(fig 2)。この記録はキオビトラと変更すべきで、私は既に述べた(9)。

13) *Mesosa perplex* Pascoe

チャゴマフカミキリ

鳳来寺山(7)、小坂井町(17)を大平・山崎氏はあげている。本種は兵庫県以西の西日本には各地で稀ながら報告されている。兵庫県以東では福井(10)、三重(20)、静岡(32)、千葉(19)、茨城(6)、岩手(2)に採集報告があるが、草間先生の話では東日本の記録は疑問や、明らかな誤同定ばかりであると。三河地方のチャゴマフも標本を確認する必要がある。

14) *Neosybra cribrella* Bates

ヒメアヤモンチピカミキリ

稲武町の記録を、2つの文献であげている(14, 27)。しかしこの2文献を調べたが本種の記録はない。大平・山崎氏の見間違いである。

また豊橋市岩屋山の記録をあけている(26)。本種は西日本に分布し、現在は三重県御在所岳が最東端の記録である(佳香蝶; 27(101)15, 1975)。従って豊橋市での発見は貴重なので、標本を確認すべく発表者の鈴木友之氏に手紙を出したら、次の返事を載いた(昭和55年3月5日)。「あくまで採集記録が目的でないで、空散の拾収虫は破損が甚しく、種の簡単な確認をして処分し、標本はありません」と。破損標本を簡単な同定で発表され、しかも破棄されたので、同定疑問種と取扱い、記録は保留とす。

15) *Monochamus nitens* Bates

シラフヒゲナガカミキリ

全く恥をさらす次第である。大平・山崎氏の論文を見てオヤッと思い、早速佳香蝶21(78)の拙文を読んでみた。1968年9月22日に裏谷で採集したと報告してある。標本箱を探してもないし、私の日誌を見てもこの日は自宅にいた。何故このようなミスが起こったか全くわからないし、今まで気付かなかったのも不覚で、ここに取消してお詫びしたい。

16) *Acalolepta degenera* Bates

ヒメピロウドカミキリ

神谷氏(12)が報告し、私(8)が引用した。神谷氏の調査された1950年代前半の段戸は、屋なお暗い原生林が多く、草原性の本種の記録は疑問である。同定も学生に任したのみ?

神谷氏の段戸の記録は保留とするが、竹内克豊氏が鋤柄氏の標本を調べた時に、豊根村茶臼山の1♀を見出している(fig 3)。

〔見落し種〕

大平・山崎氏が見落された種を述べる。

1) *Necydalis solida* Bates

オオホソコバネカミキリ

ニッコウホソコバネカミキリの名で神谷・大平氏が段戸をあげている(11)。このことを大平・山崎氏が記入しなかったのは、見落しか、誤りで取消したのか何れかであろう。

2) *Trichoferus campestris* Faldermann

マルクビケマダラカミキリ

白井氏(23)が豊橋市より報告している。

3) *Ceresium holophaeum* Bates

ヨコヤマヒメカミキリ

大平仁夫氏が岡崎市で採集されたヒメカミキリを林匡夫氏に送られた。林氏(5)はこれを *Curtomerus flavus* Fabricius マルクビヒメカミキリと発表された。これは同定誤りでヨコヤマヒメカミキリの小形で色の淡い個体と訂正をされた(林氏私信)。最近湯沢氏(34)は渥美半島から記録された。なお近似の *C. longicorne* ヒゲナガヒメカミキリは三河地方の3ヶ所で記録されているが、これらの報告の中にヨコヤマヒメが混じているかも知れない。

4) *Molorchus hattorii* Ohbayashi

クロツヤヒゲナガコバネカミキリ

下山村のカエデの花で河路氏(15)が記録している。

5) *Mesosa poecila* Bates

マダラゴマフカミキリ

下山村三河湖付近で、ミズナラ?の材から脱出したのを齊藤氏(21)が報告している。

6) *Oberea nigriventris* Bates

ホソツツリンゴカミキリ

神谷氏(12)はホソキリンゴカミキリの和名で、段戸から報告された。

〔その後の追加種〕

大平・山崎氏は1978年までの文献資料を紹介された。1979年以降のを記してみよう。

1) *Anaglyptus matsushitai* Hayashi

マツシタトラカミキリ

稲武町高田木から集めた枯れたクリより、幼虫を羽化させている(35)。

2) *Asaperda agapanthina* Bates

シナノクロフカミキリ

稲武町面ノ木峠の材より羽化させている(35)

3) *Sybra unifasciata* Fujimura

ヒトオビチビカミキリ

河路氏(16)は稲武町黒田で集めた枯材、湯沢氏(35)は設楽町栗島林道で集めた枯材から本種を羽脱させている。

4) *Ropica dorsalis* Schwarzer

フタホシサビカミキリ

竹内氏(30)は豊根村分地で、灯火採集で採集されている。本種は種子島以南、西表島まで分布し、四国・九州では発見されていない。本州では東京から愛知までの大平洋岸の諸県と、山梨・長野の両県から記録されていて、その分布は限られている。

5) *Clytosemia pulchra* Bates

ジュウジクロカミキリ

稲武町大野瀬のオニグルミの枯枝から羽化させている(35)。

〔まとめ〕

確認した同定違い……シナノサビ、ヒメマルクビヒラタ、ミワヒメハナ、ブチヒゲハナ、ヤマトシロオビトラ、シロオビトラ、シロヘリトラ、6種。

同定違いらしいが、標本がなく確認不能(保留記録)……アカムネハナ、ヨコモシメハナ、ヒメアヤモンチビ、ヒメビロウド、4種。

ぼんやりミス……シラフヒゲナガ。

偶産種……トドマツ

標本確認を要する記録(準保留記録)……ニッポンハイロハナ、コトラ、チャゴマフ、3種。

追加種……オオホソコバネ、マルクビケマダラ、ヨコヤマヒメ、クロツヤヒゲナガコバネ、マダラゴマフ、ホソツツリング、マツシタトラ、シナノクロフ、ヒトオビチビ、フタホシサビ、ジュウジクロ、11種。

以上であるが、竹内克豊氏は写真撮影を始め

色々と御協力を給り感謝の意を表したい。

引用文献(A B C順)

- 1) 青木重幸 1972: A revision of the Japanese species of *Rhagium*, 昆虫 40(3), 162-173
- 2) 千葉惇平他 1962: 関市産カミキリムシ科目録, Danburi 3, 16-20
- 3) 原田猪津夫 1978: 広域農業開発基本計画調査 設楽地区調査報告書(東海農政局計画部刊), 11-44
- 4) ————1979: 三河で採集したカミキリムシ, 鳳来寺山自然科学博物館報 8, 21-27
- 5) 林 匡夫 1956: Studies on *Cerambycidae* from Japan and its adjacent regions (V), 昆虫学評論 7(2), 39-41
- 6) 日置正義 1973: 茨城のカミキリムシ, るりぼし 1, 6-9
- 7) 鳳来寺山自然科学博物館資料分類目録 1, 44-45
- 8) 穂積俊文 1972: 東海甲虫誌第18報, 佳香蝶 24(92), 38-56
- 9) ————1979: 同第23報, 同誌 31(120), 54-63
- 10) 井崎市左衛門 1959: 福井県のカミキリ, 新昆虫 12(1), 47-50
- 11) 神谷一男・大平仁夫 1954: 愛知県に産する興味ある甲虫類, 新昆虫 7(7), 20-24
- 12) 神谷一男 1955: 北設山岳及鳳来寺山県立公園一帯の自然科学, 62-67
- 13) ————1956: 三河湾自然公園調査報告書
- 14) 蟹江 昇・竹内克豊・今瀬雅行 1977: 名古屋昆虫同好会興三河採集会—カミキリムシ科の記録—, 佳香蝶 29(111), 34-35
- 15) 河路掛吾 1976: 愛知県東加茂郡でクロツヤヒゲナガコバネカミキリを採集, 佳香蝶 28(107), 48
- 16) ————1979: カミキリムシ科2種の蛹

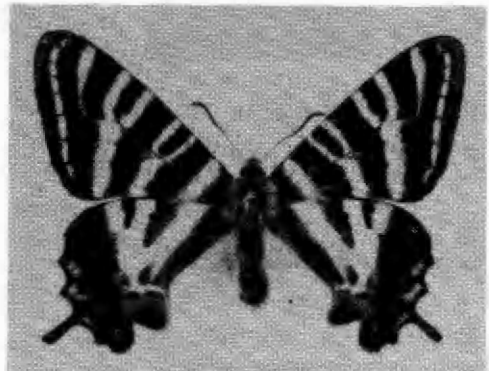
- の形態、佳香蝶 31 (19)、41-43
- 17) 三河生物同好会編 1976：小坂井町誌、1-50
- 18) 松本むしの会編 1976：長野県のカミキリ
- 19) 中山 幹 1962：館山を中心とした房総南部の昆虫目録、千葉県動物誌 1、27-58
- 20) 大町文衛他 3名 1960：平倉演習林の昆虫相 (第 1 報 鞘翅目)
- 21) 斉藤孝夫 1977：愛知県三河湖にてマダラゴマフカミキリを採集、月刊むし 70、30
- 22) 佐藤正孝 1976：茶白山、面ノ木峠一帯の甲虫相、茶白山高原道路建設予定地域の自然環境調査報告書 (愛知県刊)、155-171
- 23) 白井勝己 1978：豊橋市東部丘陵地とその周辺のカミキリ類、虫譜 16、10-14
- 24) 鋤柄守三 1951：三河地方の天牛類 (1)、虫譜 1 (1)、16-22
- 25) 鈴木光男 1955：三河地方の 2・3 の天牛類、虫譜 5 (1)、20
- 26) 鈴木友之 1976：弓張山系の農桑空散による影響調査から死亡昆虫目録、その 1 (鞘翅目)、虫譜 15 (1)、8-10
- 27) 竹内克豊 1976：稲武町井山川流域のカミキリムシ、佳香蝶 28 (108)、53-58
- 28) 1976：岡崎市でニセハイイロハナカミキリを採集、佳香蝶 28 (108)、62
- 29) 竹内克豊・松村英一 1978：愛知県のカミキリ数種、佳香蝶 29 (113)、8
- 30) 1979：フタホシサビカミキリを愛知県で採集、月刊むし 103、39
- 31) 露木繁雄 1969：愛知県及び静岡県でのカエデヒゲナガゴバネの記録 インセクト・マガジン 72：70
- 32) 渡辺弘之 1959：青崩峠 (遠州・信州境) のカミキリムシ、新昆虫 11 (6)、43-44
- 33) 湯沢宣久 1975：三重県でのヒメアヤモンチビカミキリの羽化例、佳香蝶 27 (101)、15
- 34) 1979：渥美半島のカミキリ数種、こめつきむし 1、4-5
- 35) 1980：愛知県北設楽郡で採集したカミキリ 8 種、月刊むし 107、24-26

豊橋市のギフチョウについて

村 田 文 彦

以前、豊橋市は本種の多産地でしたが、近年ではほぼ絶滅に近い状態です。それで私は、昭和 50 年ごろより本種の調査をして来ました。その結果、昨年岩崎町にて本種を 1 頭得ることができました。なのでここに発表します。

採集地：豊橋市岩崎町
採集月日：1979年3月31日 (1♂)
採集者：村田文彦



岩崎町産

ニホンホホビロコメツキモドキを採集

河路樹吾

筆者はニホンホホビロコメツキモドキ *Doublidaya bucculenta* Lewis を採集している。本種は珍しいと思われるので報告しておく。

1977. I. 16. 5♂. 5♀.

豊田市六所山。

本種は、数年前に切られ枯れたマダケの空洞中に見つかり、1本(約3m)には1~3頭が各1頭ずつ見られた。なお、幼虫も数頭見られた。

参考文献

林 長閑(1974)ニホンホホビロコメツキモドキの生態、昆虫と自然 Vol. 9. No. 7.



三河で採集したクワガタ2種



ルリクワガタ

筆者は、三河地方では珍しいと思われるクワガタムシを採集しているので報告しておく。

(1) ルリクワガタ(左)

Platycerus delicatulus LEWIS

採集日: 1974. V. 26. 1EX

採集地: 北設楽郡設楽町段戸裏谷。

枝先に付いていたのか? 飛来して来たのか?
? 採集中の筆者の上着に付いていた。



チビクワガタ

(2) チビクワガタ(右)

Figulus binodulus WATERHOUSE

採集日: 1975. VI. 7. 8 EXS.

採集地: 南設楽郡鳳来町湯谷

湯谷温泉付近の水銀燈下で採集。他にノコギリクワガタ、コクワガタなどが見られた。

河路樹吾